

特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
ニュースレター第 40 号 2025.8.1



「第 22 回 NPO 法人環境パートナーシップ いわて総会」が開催されました

「第 22 回特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて総会」が6月29日(日)アイーナ 5F、501A 会議室にて開催されました。出席 11 名、委任状提出 58 名で、総会開催要件を満たし、渋谷晃太郎代表理事挨拶の後、議長に田近志保子氏を選出し議事に入りました。事前に理事会で承認されていた 5 議案(第 1 号議案:令和 6 年度事業報告、第 2 号議案:令和 6 年度活動決算報告、第 3 号議案:令和 7 年度事業計画、第 4 号議案:令和 7 年度活動予算、第 5 号議案:令和 7 年度役員給与の総額)を会員の皆さまにお諮りし、すべての議案の承認をいただきました。

第 3 号議案の運営方針では、活動理念として「未来世代により良い環境を引き継ぐことを目指し、環境教育および環境保全・

創造活動を促進することで、県民が持続的発展可能な循環型社会の実現に寄与する」が示され、2019 年 11 月の地域循環共生圏フォーラム開催の際に掲げた目標「脱炭素と SDGs の達成を岩手から」のさらなる推進。アイーナ SDGs 普及の拠点として環境学習交流センターと岩手県地球温暖化防止活動推進センターの 2 つが、アイーナのコア施設として機能するよう自覚を持ち、この認知度を一層高めていくことを確認しました。また、昨年度より進めてきた、新型コロナウイルス感染の収束とともに進行する、環境・生物多様性・気候危機の構造的な関連を踏まえ、脱炭素の加速につなげる「緑の復興(グリーンリカバリー)」の考え方と実践に鋭意に取り組む。SDGs を連携の切り口として、多様な団体との連

携を生み出し、各地域にパートナーシップを進めるためのフラットな場づくりを進める。自治体の意向を踏まえ、必要に応じた温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定に向けた支援と協力に取り組む。同時に市町村と住民をつなぐワークショップ等への支援を進める。水生生物調査の機会等を通じ、川ゴミ、海ゴミ、プラゴミについての調査を進め全県的なマップに集約する。30by30 アライアンス活動*として、活動事例を1回／年報告し、自然共生サイトの登録を目指す等が示されました。

会員の皆さまはもとより県民の皆さまをはじめ、岩手県にとってなくてはならないNPO法人となるべく、努力を続けていく考えです。運営に際しまして、会員の皆さまの一層のご理解、ご支援、ご提案をいただきますようお願い申し上げます。

*30by30 アライアンス活動

「30by30（サーティ・バイ・サーティ）目標」とは、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する目標。2022年12月に生物多様性条約第15回締約国会議で採択。日本は2023年3月に「生物多様性国家戦略2023-2030」を閣議決定し、2030年までのネイチャーポジティブ（自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること）実現に向け30by30目標を位置付けた。環境省では、2023年度から「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定。県内ではこれまで5か所が認定されている。

積水メディカル岩手工場、久保川イーハトーブ世界
北越コーポレーション外川山林、大小迫つむぎの家
盛岡セイコー工業わくわくの森・わくわくトーブ



左の写真は当法人会員
盛岡セイコー工業さん
のわくわくの森・わくわく
トーブ

環境パートナーシップいわて

組織体制の変更

***事務局長に白澤重則さん**

***事務局次長に坂下慶夏さんが就任**

総会終了後に第3回理事会が開催されました。審議事項は1議題、定款第21条2項に規定される事務局長の選任です。

新たに事務局長として白澤重則理事が提案され、参加した理事全員の了承をいただきました。

白澤理事は、これまで事務局次長として、森事務局長を補佐し、環境学習交流センター、岩手県地球温暖化防止活動推進センター全般の業務、および経理部門と省エネルギー診断事業にかかわってきました。

組織の若返りを図り、今後は事務局長としての業務にあたります。7月1日の発令です。

また、7月1日付け人事異動により坂下慶夏さんが事務局次長に就任しました。坂下さんは、これまで環境学習交流センターの流域活動支援、岩手県地球温暖化防止活動推進センターの推進員派遣、両センターの情報発信等の他、県の委託業務であるいわてカーボンフリー・アクション、大人の遠足等、多様な業務に携わってきました。今後は、より複合

的な視点を持ち、両センターの業務運営のみならず、環ぱいの自主事業にも関わります。これまで事務局長を務めてきた森一夫理事は、省エネルギー推進室長となり、資源エネルギー庁の補助事業である省エネルギー診断事業と環ぱいのさらなる発展のための基盤づくりとなる新規事業の開拓に取り組むことになりました。また、吉田政司理事・総務部長は6月30日で退職され、今後は外部理事として環ぱいの運営に関わります。

白澤重則事務局長



この度、事務局長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。

前職（アイシーエス）では、主に経理部門を担当

し、当法人においても総務および経理業務に携わりながら、補助事業（省エネ診断等）を経験しましたが、事務局長の立場として事業全体の統括を上手くコントロール出来るのか不安ですが、職員および関係者の皆様のお力添えをいただき、当法人が更なる発展ができるよう微力ではございますが頑張りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

余談ですが、休日はゴルフ、映画鑑賞およびドライブなどでリフレッシュしていますが、ゴルフに関しては体調をみながらのラウンドとなっており、現役時代に比べるとかなり回数が減っていることに歳を感じています。

坂下慶夏事務局次長



この度、事務局次長として新たな役割を担うことになりました坂下と申します。岩手県大槌町出身で、中学3年生の時に東日本大

震災を経験し、自然の力の大きさと尊さを強く感じました。高校卒業後はご縁がありドイツで二年間過ごし、自然と共生するドイツの人々の暮らしや環境政策に魅せられ、大学ではドイツの環境政策などを学びました。岩手とドイツには、豊かな自然や

地域の人々のつながりなど、似ている部分がたくさんあります。

そんな岩手に恩返しがしたいという思いから、大学卒業後は岩手に戻り、2020年度から当法人に勤めております。

これからも、皆さまと共に、未来の世代へよりよい環境をつなぐ活動に尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

**環境学習交流センター企業展示
全国の温暖化センターでは初！
「CO₂を食べる自販機」
の展示が始まる**

CO₂を吸収する自動販売機の展示が環境学習交流センターで始まりました。

この展示は、アサヒ飲料株式会社とダイドードリンコ株式会社を親会社に持ち奥州市に本社を置く株式会社ミチノクさんのご協力により実現しました。

自販機は電力を消費するため、環境によくないのではないかと。そうした批判に対し、CO₂吸収剤を機械の内部に組み込む新たな方式を採用し、環境負荷の低減を目指しました。

1年間稼働すると、およそ杉の木20本分が吸収するCO₂量が処理されます。吸収剤は2週間に1度交換され、その後コンクリートなどの建築資材に再利用されます。



「CO₂ を食べる自販機」の展示は、全国の地球温暖化防止活動推進センターでも初めての試みで、波及効果が期待されます。

7月3日の展示開始日には、展示を支援するアサヒ飲料株式会社東北支社、東京海上日動火災保険株式会社盛岡支店、NPO 法人未来図書館の関係者一同が出席し、セレモニーを行い、展示の開始を祝いました。

8月9日(土)には、CO₂ を食べる自販機の展示を記念した環境学習講座「地球のピンチを救え！CO₂ をへらす大冒険」として小学生以上の子どもたちを対象にイベントが開かれます。

内容は2部構成で、第1部は東京海上日動火災保険が「みどりの授業～マングローブ物語～」として動画やクイズでマングローブが生育する環境や地球温暖化、地球の環境を守るためにわたしたちができること等を学びます。

第2部はアサヒ飲料・ミチノクによる「ミチノクオリジナルの自由研究ノートによる地球温暖化をまとめてみよう」「自動販売機を開けてCO₂ 吸収材を確認するとともに、商品補充や搬出の体験」「地球についてのクイズラリー」を行います。



「CO₂ を食べる自販機」の横にはCO₂ を吸収させた吸収剤から造られた建材も展示しています。

なお、CO₂ を食べる自販機は8月末まで展示します。ご要望があれば自販機を開けて機械の内部をお見せします。CO₂ の吸収

剤がどのように配置してあるのかをぜひご覧ください。環ぱい会員の皆さまのお越しをお待ちしております。



環境パートナーシップいわてニューズレター第40号をお届けいたします。22年目を迎える「環境パートナーシップいわて」の第22回総会の模様ならびに7月1日から新たに就任した白澤重則事務局長、坂下慶夏事務局次長をご紹介します。

また、委託業務であります環境学習交流センターの展示として、全国初となるCO₂ を食べる自動販売機の展示を始めるにあたり開催されたセレモニーをご紹介します。

抜き差しならぬ状況となってきた地球温暖化を始め、地球環境が激変する中で私たちの暮らしをよりよいものとするにはどうするのか？ 私たちには、多くの難問が突きつけられています。

環ぱいの基本理念「こちよく豊かに生きる」を実現し、豊かな岩手の未来を創造するために環ぱいの活動は益々重要性を増してきているように思います。

会員の皆さまのご協力、ご支援が欠かせません。環ぱいの諸行事にご参加いただき、ご意見をお寄せ下さい。会員の皆さまの総意がこれからの環ぱいを発展させる力となります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

・・令和7年度会費納入のお願い・・

令和7年度の会費納入の用紙を同封しています。年会費3,000円の納入をお願い申し上げます。(恐縮ですが振込手数料はご負担下さい)なお、すでに今年度分の会費を納められた方には請求書を同封しておりません。

ニューズレター第40号 令和7年8月1日発行
編集：特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて事務局

〒020-0124 盛岡市厨川 5-8-6

TEL:019-681-1904 mail: kanpai@utopia.ocn.ne.jp
